

# 令和7年度 高知県環境審議会自然環境部会 議事録

日時：令和7年8月28日（木）10:00～12:00

場所：高知共済会館 COMMUNITY SQUARE 4階「浜木綿」

出席者：[委員] 石川 慎吾（部会長）、佐藤 重穂（副部会長；オンライン）、時久 恵子、濱田 美穂、細川 公子、高橋 徹、岩瀬 文人、三谷 幸寛、森田 嘉代、中村 大助（計10名）（敬称略。順不同）

[事務局] 高知県林業振興・環境部副部長、自然共生課 課長等（計6名）

## 1 開会

- ・挨拶等

## 2 会議録署名委員の指名

- ・会議録署名委員について、佐藤副部会長、濱田委員を指名

## 3 議事

- 1) 生物多様性こうち戦略【2024改定版】の行動計画の取組状況と成果について、事務局から説明
- 2) 生物多様性こうち戦略【2024改定版】の【概要版】（案）について、事務局から説明
- 3) 質疑応答

### <議事1「こうち戦略の行動計画の取組状況と成果について」>

#### 【岩瀬専門委員】

資料1の表中、「イ R6年度の実績（アウトプット）」と「ウ R6年度の実績（アウトカム）」欄はそれなりに書かれているが、「オ 分析、検証と今後の対策」欄は、今後すべきことや、する予定のことについて書いてあるのみで、分析、検証が書かれていない項目が多くある。次からは、「オ」欄は「分析と検証」にし、「カ」欄に「次年度の行動計画」と「今後の対策」を書くように修正するべきではないか。分析・検証のうえ、その結果を書くようにしてほしい。

例を挙げると、資料1の11ページ、28番の1番上の項目について、「オ」欄に「継続して、浅水代かきの周知、啓発活動を進めることが必要」とあるが、その理由（分析や検証）が書かれていない。また、「イ」欄には実践したことが書かれているが、「ウ」欄には「～ができた」と書かれているのみで、挙げた成果を具体的に書いていない。また、検証がされていないのに、「継続して進めることが必要」と書いている。

28番の他の項目でも、計画のみが書いてあり分析がされていないため、改善をお願いしたい。

#### 【事務局（自然共生課長）】

表の構成について、次回に向け検討したい。

#### 【石川部会長】

28番2番目の「濁水の発生を抑えることができた」について、濁度等を計った具体的なデータはあるか。

#### 【事務局（自然共生課長）】

この項目に直接関係するかどうかは地点を調べないと分からないが、場所によっては濁度を測ったデータは存在する。

**【石川部会長】**

データがあるところは分析、検証が可能と思われる。ない場合には「具体的なデータがない」とすると分かりやすい。

**【細川委員】**

資料1 概要の4番、県立甫喜ヶ峰森林公園での行事について、令和6年は資料のとおり実施されているが、私が行っていた年3回のガイドウォークは令和7年は全く実施されておらず、ホームページにも計画がない。行事が全くなくなることに対しては思うところがある。

16番の推進リーダーについては、えこらぼと密接に連携し、推進リーダーの活動状況が分かるようにするとよいのではないか。

23番のニホンジカによる食害については、早く手を打ってほしい。私がよく行く工石山には、まだあまりシカが居らず、オオマルバノテンニンソウやヒメコウモリソウなどの群生が見られるが、反対の土佐町側ではシカの食害が見られる。

阿蘇ではマツムシソウやツクシミカエリソウが多く生息していたが、食害により全くなくなってしまった。工石山にもシカが入ってきた場合、同様の被害を受けることが懸念される。

**【事務局（自然共生課長）】**

甫喜ヶ峰の行事が令和7年度になくなっている理由等について、担当課に確認したい。

リーダーの活動状況について、リーダーの負担にもなりうるため、どういう活動情報が得られるか検討したい。

ニホンジカの食害については、鳥獣対策室と連携しつつ対策を考えたい。

**【事務局（林業振興・環境部副部長）】**

甫喜ヶ峰の件について補足させていただく。

資料1 概要1ページの4番のとおり、森林研修センターの情報交流館でも甫喜ヶ峰でも、令和6年度は計画よりはるかに多い実績を上げている。令和7年度が取組が確認できなかったということだが、年度当初は計画を最小限に見積もっていることもあると思うので、今年度、実際に取組ができているのかについて確認したい。

**【石川部会長】**

甫喜ヶ峰の件について、計画に対して予算措置がなされていると思うが、どうなっているのか。

**【事務局（林業振興・環境部副部長）】**

指定管理者に対して行った予算措置の中で、指定管理者が予算の範囲内で適宜業務のやりくりを行って直接対応している部分が多い。このため、年間当初に全てを計画することは難しいが、指定管理者への予算措置はできている。

**【石川部会長】**

1回ごとの事業ではなく、年間での措置ということで承知した。

**【石川部会長】**

資料2 プラン3の目標9、10について、30by30、つまり「2030年までに陸域、海域のそれぞれ30%以上を生物多様性の保全に資する地域として指定」する目標はかなりハードルが高いが、把握してい

る範囲で、現在自然共生サイトの登録申請に向けて活動している組織はどれくらいあるか。

**【事務局（自然共生課長）】**

事前問合せとして2～3件あるが、申請できる段階にまでは至っていない。

**【石川部会長】**

私は今2件相談を受けているが、いずれも面積的には狭く、登録されたとしても、面積が大きく増えるわけではない。

民間に全て任せてしまうと目標を達成できないと思われるため、県としても広い面積を登録できるように掘り起こすことも必要だと思う。

**【事務局（自然共生課長）】**

県土の面積は71万haで、目標9（保護地域及びOECMの面積割合）の数値が1パーセンテージポイント増えるためには、7,000haほど自然共生サイトや保護地域を増やさなければならない。（この面積は広大で）民間のみでの活動で達成するのは難しいと考えている。国でも目標達成に向けて対応を考えていると聞いているので、国とも連携して、目標を達成できるように考えていきたい。

**【岩瀬専門委員】**

資料1概要の4番について、情報交流館や甬喜ヶ峰等の活動はすばらしいが、県東部、西部からの参加が大変である。西部であれば四万十川財団や砂浜美術館等、県中部以外にもイベントを開催できる人や施設があるため、県中東部や西部でも活動をしてほしい。

13番の外来生物について、大月町ではオオキンケイギクやアレチウリ等、要注意の外来生物が多く出現してきているが、町民がほとんど知らない。パンフレット等が役場に何十部か配られてはいるようだが、全世帯に配れるほどの措置をしてほしい。特にオオキンケイギクは栽培している人が多く、アレチウリも、ハヤトウリから置き換わって増えている。県の広報への折り込み等しっかりと普及活動をしていただきたい。

47番について、「取組」には防塵柵と書いてあり、他の枠には防護柵と書いてあるが、同じものを指すということでよいか。

**【事務局（自然共生課長）】**

西部での活動について、四万十川財団でも自主的に取り組んでいる活動があるが、それを数字として拾っていないので、数を増やすといったことも考えつつ対応させていただく。

外来生物の周知について、全世帯への紙媒体での配布は難しいかもしれないが、県の広報等を活用するなどして、多くの県民に周知できる方策を考えたい。

47番の表記は統一する。

**【岩瀬専門委員】**

37番は水産多面的機能発揮対策のことだと思われるが、確かに藻場が良くなっている点は実感している。ただ、昨年度、竜串や柏島のサンゴが1998年以来の大被害を受けているが、資料に反映されていない。資料への反映は来年度になるのかもしれないが、認識が甘いのではないか。また、「成果・検証」欄に「活動区域の多くで維持・増大が確認された」とあるが、「何か所中何か所」と書いていただきたい。

**【事務局（自然共生課長）】**

サンゴの被害については、確認させていただきたい。また、「成果・検証」欄の書き方も修正を検討したい。

#### 【時久委員】

資料2の12番（ニホンジカの年間捕獲頭数）では、目標値の25,000頭に対して令和6年度実績が20,461頭とかなり離れており、達成度が「△」（目標達成が困難な状況）となっている。猟友会等が懸命に取り組んでいるものの、さらに数値を上げなくてはいけないということか。

#### 【事務局（自然共生課長）】

目標値は25,000頭としている。すぐ達成することは難しいが、鳥獣対策室とも連携し、狩猟者を増加させたり、捕獲強化をしたりして取り組むこととなると考える。

#### 【事務局（林業振興・環境部副部長）】

補足させていただく。捕獲頭数の問題のほか、シカが県境をまたいで移動するため、高知県だけで取り組むことにも課題がある。鳥獣対策室によると、これまでシカがあまり見られなかった石鎚山系でも見られるようになってきており、高知県と愛媛県で連携した取組を行うこととしている。

#### 【石川部会長】

以前はニホンジカの年間捕獲頭数目標が30,000頭だったが、25,000頭に減らしている。

30,000頭の根拠は、数年前に、生息頭数の推計値から試算した、適正規模に戻していくために捕らなければならない頭数である。ただ、猟友会等が懸命に取り組んでいるものの、捕獲が難しい場所もあるため、現状に即しつつ緩やかな減少傾向を保てる数字として25,000頭に修正されている。

高知県だけで解決できる問題ではなく、特に徳島県と愛媛県の県境が重要になる。高知大学でも愛媛県の関係者と議論し、実施主体を越えた連絡組織をつくることを検討している。

#### 【岩瀬専門委員】

シカに関連して、鹿肉を食用に加工するにはハードルが高いが、最近はペット（犬の餌）用として需要があるようである。今でも1頭当たりの報奨金が狩猟者に入っているが、捕った後の処分が大変であるためシカを捕りたくないという人もいる。しかし、ペット用の処理は食用よりは楽で、売れるとなると狩猟者のモチベーションが向上し、捕獲により力が入ると思われる。県として後押しできればシカの捕獲数が増えると思う。

#### 【濱田委員】

資料1の25ページ64番について、アウトカム（成果）欄によると調整が進んでいるとのことだが、現在はどうな状況になっているのか。

土佐和紙を残していくために後継者を育成したとしても、原料のコウゾがないと生産ができない。また、水を上質に保たないと良い和紙ができない。

工業振興課は原料栽培にも力を入れる旨の計画を立てているが、進んでいない。また、コウゾ、ミツマタの栽培には林業も関係してくる。林道の整備等も含め、県が主体になって進めてほしい。

アウトカムに載っている原料生産の補助金の調整について、工業振興課に詳しく書いてほしい。

#### 【事務局（自然共生課長）】

担当課につなぎたい。

### <議事2「生物多様性こうち戦略【2024改定版】の【概要版】（案）について」>

#### 【三谷専門委員】

2ページの「生物多様性の4つの危機」の「第1の危機」の写真は、皆伐後の山を写したものであ

るが、こうち戦略の本編には「皆伐が悪い」とは書いておらず、この写真も使われていない。この写真を使うと皆伐が悪いことだという印象を与えるのではないか。

**【事務局（自然共生課長）】**

写真の差し替えを含めて検討する。

**【石川部会長】**

各写真のクレジット（著作権）に関しては問題ないか。

**【事務局（自然共生課長）】**

本編の冊子と同じ写真を使用しているところもあるが、再度確認する。

**【石川部会長】**

表紙と中身で写真が重複しているものがあるが、情報量が多いに越したことはないので、適切な写真があれば重複しないようにしてほしい。また、キャプションが誤っていると思われるものもあるため、確認をお願いしたい。

5 ページ 2～3 行目の文言について、「本県は北に四国山地がそびえ、南は太平洋が開けており…」とあるが、「南には」に修正してほしい。

6 ページの「将来イメージ」は前回の概要版では見開きだったが、今回は 1 ページになり、文字が潰れて読みづらい。元の画像に飛べるようページ内に QR コードを入れ、「読みづらい場合は QR コードの先を参照してください」というキャプションをつけてほしい。

改定のポイントの説明は分かる形にまとまっており、全体的にはよくできていると思う。

**【岩瀬専門委員】**

5 ページの基本理念を大きくし、上の 2 つのパラグラフの間に移動させてほしい。

8 ページ及び 10 ページでプラン 4「活かす」の扱いが小さくなっている。プラン 4 が県民のやるべき部分、取り組める部分であるため、プラン 4 の扱いを大きくしてほしい。

1 ページ「(1) 生態系の多様性」での生態系の説明について、海ならば藻場、山ならばブナ林等、生態系としてイメージしやすい文にしたほうがよいのではないか。

**【細川委員】**

4 ページ以外の写真にはキャプションがなく、何の写真なのかを把握できないため、キャプションをつけてほしい。

**【事務局（自然共生課長）】**

いただいた修正意見を基に修正したい。

**【石川部会長】**

概要版は学校等での環境教育に使用すると説明があったが、何部ほど印刷するのか。生物多様性こうち戦略推進リーダーの養成講座やスキルアップ講座等、様々な場面で活用できる。電子化が進んでいるとはいえ、紙媒体の方が現場では活用しやすいため、部数は多めに用意してほしい。

**【事務局（自然共生課長）】**

（予算の範囲内で）多めに用意したい。

## 4 閉会